

Contents

支部長挨拶	P1
新体制執行部紹介	P2-P3
オピニオン	P4-P5
とりせつ	P6
トピックス	P7-P9
あのところ	P10
よかもん	P11-P12
わさもん	P13
委員会報告	P13-P16
地域会活動報告	P17-P26
編集後記	P27

「未来への結束」

JIA九州支部長 松山将勝



JIA九州支部会員の皆様におかれましては、パンデミックの状況下で不自由な日常をお過ごしかと思います。

予断を許さない状況ですが、日常も少しずつ取り戻しつつあります。どうかくれぐれもお気をつけてお過ごしください。

5月22日WEB形式で開催された支部総会をもって九州支部は、新体制に移行しておりますが、本日6月26日JIA本部の総会が開催され、正式に九州支部長に拝命されました。

九州支部は、一昨年に30周年を迎えました。今日まで諸先輩が築きあげてきた歴史や教えを、我々世代が次の世代へ着実に継承していく事が、私に課せられた一番の命題と捉えております。そこで支部テーマを『未来への結束』と致しました。固定概念にとらわれることなく、新しい発想で次世代を担う若者に、JIAの魅力伝えていけるよう新たな一歩を踏み出していきたい。その為には、九州支部が結束しJIAの未来を考え、この会に所属する事の意義を私たちが示していかなければ未来は開かれない。という危機感を持ってこの職務を果たして参りたいと考えております。また、昨今のパンデミックによって、建築家を取り巻く環境も劇的に変わる事でしょう。そうした意味では、大きな転換期とも言えます。

この変革の時にこそ、建築家はこれからの建築や都市空間の未来像を提唱する存在でなければなりません。今こそ、JIAの真価が問われている時だと考えます。今年の秋に開催予定だった九州支部大会は、そうした議論の起爆剤になればと期待していましたが、まだまだ不安定な状況を鑑みて、先日の役員会にて来年に延期する事を決議致しました。スタートから苦難の連続ですが、今年度の活動は新たな方法を模索しながら、活発な議論の基盤づくりを模索して参ります。建築家は資格制度ではありませんので明確な定義はありませんが、自己研鑽を続け、建築を通して社会に貢献する意思を持った人間が建築家を称すると考えています。その意思と情熱を持った建築の集団として、その存在意義を提示し、未来へつなぐ組織を確立させるべく、強い覚悟で挑んでいく所存です。

至らない点も多々あるかと存じますが、精一杯努めて参りますので、引き続きJIA九州支部にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

追伸:会員の皆様には既にご案内のとおり、JIA九州支部のホームページを一元化し、リニューアルしましたので、ぜひご覧ください。支部事業や各地域会のさまざまな活動やイベント情報など、リアルタイムでお知らせして参りますので、多くの情報をお待ちしております。

また、この広報誌ブルテンでは、お一人おひとりに焦点をあてた企画など、楽しい広報誌になればと広報委員会が奮闘中です。ぜひ皆様のご協力と寄稿をお待ちしております。



本部理事

柴田 真秀 *masahide shibata*

本部理事を拝命して2年目になります。昨年度は、川津支部長と共に朝早くの飛行機に乗り理事会に出席してきました。今年度は、4月、5月、6月とコロナの影響で理事会は、web 会議になり上京しておりません。7月からは、松山支部長と仲良く会議に出席してまいります。会議内容は、支部役員会でなるべくわかりやすく説明していこうと思います。地域会役員の方には、理事会報告をすべて送ってあります。資料が多いですが、ぜひとも目を通していただくようお願いします。今年度もよろしく申し上げます。（財務委員会委員長 熊本地域会）



副支部長

佐々木 信明 *nobuaki sasaki*

雲仙普賢岳の勇姿は季節の移ろいにつれて微妙に色を変え、季節の花々が咲き誇り鳥も囀り、いつもと変わりのない趣を見せられます。長崎地域会・島原市在住の佐々木 信明です。九州支部も新しい年度が始まり、新体制の副支部長を仰せつかりました。建築をとおして刺激しあい、様々な年代の建築家が集う集団として魅力ある支部活動の中で、それぞれの地域での活動を活発化していけるよう一緒に頑張りたいです。（長崎地域会）



副支部長

佐々木 寿久 *toshihisa sasaki*

九州支部の皆様、今回九州支部副支部長に任命頂きました、福岡地域会の佐々木寿久です。前年度までは福岡地域会長を務めさせて頂きました。その経験を基に九州支部で会の運営に携わっていきたく思いますのでよろしくごお願い致します

昨今のウイルス感染拡大に伴い、働く環境も建築もゆっくりと変わっていくのだと実感しております。先輩方の経験と若い世代の意見をつなぐ中間的な年齢（51歳）です。それを意識した運営を心掛けてまいります。大変簡単ですが皆様とお会いしてお話ができる日を楽しみに挨拶とさせていただきます。（福岡地域会）



副支部長

松島 逸人 *hayato matushima*

以前読んだ話によりますと、「100年前の日本が今と驚くほど似ている」そうです。幕末維新が「混乱期」だとすると、明治は「発展期」で、大正は「安定期」。太平洋戦争と戦後暫くが「混乱期」で、高度成長の「発展期」を経て、平成が「安定期」。「歴史は繰り返す」とすると、令和は「混乱期」で、我々は今、大きな時代の転換期に立ち会っているのかもしれませんが。このような時代に、武士のような松山さんを支部長に迎えた事も何かの巡り合わせでしょうか。「みんな」で作る「みんな」の会が、広く「みんな」である社会に貢献できるよう、新支部長を支え、エンジン役となって汗をかかせていただきたいと思います。松下幸之助さんは、著書「成功日めくり」の中で、「できない理由をさがさない」と述べています。姿の見えないウイルスに覆われ、社会も我々の活動も滞っていますが、今できる事を一つ一つ積み上げて行きたいと思い、先ずその第一歩として、皆さんの活躍されている地域の建築や街並み、景観を再度見つめ直し、皆さんの眼線で選んだモノを広く配信して行く事業を企画しました。これは、特定の誰かだけでなく、広く多くの会員の皆さんに参加、配信していただき、老若男女の壁を越えて、皆で情報や価値観、成果や喜びを共有したく願っています。これを持って、九州内の行政や様々な団体に訪問する中から、リアルなまちづくりに関わるチャンスを模索していきたいと思っています。2年間、皆様の御理解と御協力をいただけますようお願いいたします。（まちづくり委員会委員長 北福岡地域会）



幹事長

下山道男 *michio sagayama*

今年度は新型コロナの影響で、移動の自粛のため支部総会を延期し、5月にWEBでの開催となりました。新執行部が発足しましたが、直接会員の皆様方に挨拶する機会がなくなりました。6月になりましたが、支部役員会もこれまでのような集合形式の会議はできずにあります。

4年前の熊本地震ではインフラが寸断され、支部総会は延期し縮小した形での開催となりました。その後の地震対応はTV会議システムを使った災害対策委員会が開かれ、罹災証明の調査では九州支部が一丸となって行うことができました。今年度、その総括事業として熊本地震の記録をまとめる事になっています。この経験を踏まえた支部運営が必要となっています。

本年の支部事業を紹介します。支部大会を北福岡で予定していましたが先日の役員会で延期となりました。一昨年の支部大会は鹿児島県奄美市で開催され多くの参加者があり、松山支部長の設計した建築や奄美の文化を楽しんでもらえました。北福岡での支部大会を期待していましたが残念です。熊本で予定していましたが建築塾も延期になりました。昨年は文化財修復塾を都城と大牟田で行い、大牟田市庁舎保存シンポジウムには大牟田市民を含む100名以上の参加者があり、現時点では今年度も現地講習会を開催する予定になっています。地域交流会は宮崎と大分の地域会の交流をきっかけに鹿児島、長崎、熊本の交流が始まり、支部全体の事業となりました。地域会を訪れ建築の見学と懇親会を行うもので、県を跨いでの交流が行われてきました。昨年度から支部大会と地域交流会を交互に開催しており今年度は開催しません。

支部役員会は年8回主に福岡市内で行われますが、持出役員会を年2回持ち回りとして福岡市以外で開催されています。会議だけではなく担当地域会の会員と交流を持つ場としても考えています。

松山支部長の支部運営テーマ「未来への結束」の実現

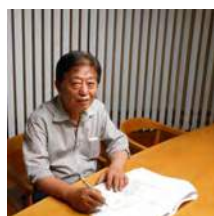
のためにはこの様な事業を通し、顔が見える支部活動が必要と考えています。当面はインターネットを利用しながらの支部活動運営になります。執行部ではこれまでの活動を継続しながら新しい交流の形も模索していきます。(総務委員会委員長 鹿児島地域会)



副幹事長

田中康裕 *yasuhiro tanaka*

今年度、支部副幹事長および、教育委員会、全国学生卒業設計コンクール実行委員会の支部委員長を仰せつかりました福岡地域会の田中康裕です。今年は、コロナのために支部総会もwebで行われ、まだ役員会も対面では行われておりません。3月に行われる予定だった熱海でのリフレッシュセミナーが中止となり、6月の卒コンも10月にweb開催となりました。この状況がいつまで続くかわかりませんが、与えられた仕事を精一杯努めてまいり所存でありますので、よろしく願いいたします。(教育委員会、全国学生卒業設計コンクール実行委員会委員長 福岡地域会)



監査

穴山 泰介 *taisuke anayama*

(監査 福岡地域会)



監査

作田 耕一郎 *kouichiro sakuda*

今回監査をさせて頂きます、九州の陸の孤島と言われる交通の便の悪い宮崎地域会の作田です。2016年17年に副支部長をさせて頂きましたが、何もわからないまま終わりました。今回は監査ということですので、九州支部の運営がスムーズに間違い無い様しっかり精査させて頂き責務を全うして行きたいと思っております。よろしく願いいたします。(宮崎地域会)

コロナ禍の中で建築家として考える

西岡 弘 (福岡地域会)



2020年初頭から世界に猛威を振るっている新型コロナウイルス禍は天災か人災か意見の分かれるところですが、人類にとって大変な災厄である事には変わり有りません。日本では毎年どこかで大きな被害をもたらす台風やゲリラ豪雨等災害の多い夏場でなかった事がせめてもの救いでした。重なれば避難所は三密空間を避け難く大変な事になったでしょう。行動制限と巣ごもり要請は、今まで無意識無自覚に日常を生きていた事が、これ程一日一日健康でいる事を自覚し、家で生活する事を濃密に意識した事はなかったでしょう。終息に3年かかったおよそ100年前のスペイン風邪パンデミックの例からも、新型コロナウイルス禍が納まるにはまだ暫く時間がかかるでしょう。因みに我が先達の辰野金吾はこのスペイン風邪で亡くなっています。

ソーシャルディスタンスをとる事も当分の間は要請されるでしょうが、あくまでもフィジカルディスタンスであってメンタルやサイコロジカルな面パーソナルディスタンスまでに及ぶとコミュニティは崩壊します。そんな危惧が心無い人の魔女狩りや犯人捜しの雰囲気として現実に垣間見えています。又、景気の動向も含めた先行き不透明で不安の継続の中で、若い人を中心に自暴自棄となり、昔「えいじゃないか、えいじゃないか」と踊り狂ったような投げやりな行動から第二波第三波の感染拡大を引き起こす事が懸念されます。

適切な治療薬やワクチンが開発され、一般医病院で簡単に治療が受けられ半数以上の人が無症状感染で抗体ができる迄は、政府の言う「新しい生活様式」が求められますが、むしろこの「新しい生活様式」は「のど元過ぎれば熱さ忘れる」的であってはならず、今後の国の在り方生活の仕方を変えていく端緒と考えるべきで建築家もそこを考えなければなりません。

人類はこれからも様々な自然災害だけでなく得体のしれない病原菌感染への恐怖、正規の戦争による使用は論外としてもテロや誤作動あるいは偽情報に反応した核戦争や原発事故による放射能汚染、火山の大噴火による灰汚染などで、スターウォーズのダースベーダーの仮面の姿が日常化する事もあながち絵空事ではありません。世界の人口爆発と後進国の生活向上による食糧危機等考えだしたら切りのない災い不安に対して人はどのように対処したら良いのでしょうか。学者によっては3から5年単位で大型の財政出動が必要な災害災厄を覚悟し、最小限のリスクで切り抜けられるようにすべての施策を考えていく必要があると述べています。それらの災いへの精神的肉体的シェルターとしての住まいや地域施設はどうあるべきなのでしょう。ウィズコロナというよりはバーサスコロナの中でアフターコロナ、ポストコロナに対して建築家はどのような提案ができるかです。

これからの国づくりも国民の暮らし方も被災、罹災時に最小限の負担犠牲で対処対応できる仕組みを作り、さらに生き方そのものを変えていく必要があるのです。JIA本部がすぐに反応したSDGsも17の開発目標として正しい事尽くめなのですが、あまりに多岐に渡り総括的で思想やお題目になりかねません。開発目標と既に開発を前提にしているところも私には疑問が残ります。かつては地球の利子で生活していたものを元本をとり崩して生活しているのです。いずれ元も子もなくなるでしょう。京都議定書レベルの話すらまともでない世界状況の中で、SDGsはむしろ問題を拡散化希釈化させているのではないかと穿った見方もできるのです。因みに建築が直接的に関係するのは7) エネルギーをみんなにクリーンに11) 住み続けられる街づくり13) 気候変動についての具体的対策の三つです。

今までグローバル化と称して外へ外へと意識が向けられ外側へのムーブメントに重きが置かれてきましたが、さらなる内需拡大等も含めて内向きへの方向性を考える良い契機です。

感染者数、死亡者数が他の国に比べてどうか今の状況を維持できているのは国民の一人一人の特筆に値する程の努力の賜物でもないし、ましてや政府のかじ取りが適切であったわけでもありません。学者によって要因はDNA遺伝子の違いではないかなど検討が進められていますが、家に上がる時履き替える習慣、箸食や入浴等日本人の生活習慣や衛生観念、社会の清潔度、コミュニティの在り方等意識や生活習慣の違いによるもので、東南アジアの国々が比較的良い結果を出しているのは日本人と近い感性を持っているからではないかと私は思っています。特に台湾が優れた結果を出しているのは、かつての日本人が持っていた美質をより残しているからに違いありません。

今回のコロナ禍で多くの問題が浮き彫りにされました。むしろ政府の決定の遅さ曖昧さや地方の首長との意思の疎通のなさ、医療体制の脆弱さなど種々の問題が浮き彫りにされました。又、ジャーナリズムは不安を煽るだけで何の役にも立たず、むしろ国民の考え方を結束を分裂させ自助努力や義務の遂行はそっちのけで政府批判に終始するだけでした。政府は政府で何かというと専門家会議に意見を求めていると逃げ腰でした。専門家会議など専門馬鹿などと揶揄される言葉があるように、自分の専門領域からの主張に固執し全体像が見えなくなっている人達が、それぞれ意見を主張しあうだけの場である事は容易に想像がつかます。又、未知の事柄に絶対的正論正解などないのです。

このような国難に対して日本の憲法を含む法律の不整備、不適切性が明らかになり、天下り行政による見せかけの自由競争、国民は国民で義務はそっちのけの権利の主張に走り、野党の在り方を含むゆがんだ民主主義、政治家の無能と使命感のなさから官僚に頼り官僚がはびこる仕組みを助長してきたことが明白になり、縦割り行政と各部署の権益温存、利権をほしいままにする事を互いに許しあう社会があからさまになりました。検査数が各国に比べて異常に少なく一向に改善されないのはこうした根本的理由によるものと思われれます。

今回実証されたようにある程度Web会議などで仕事ができるとなると今までと職場や仕事の仕方が変わってくるだろうし考え直さねばなりません。雇用形態も望む職業も変わってくるでしょう。すべての価値観世界観の変化が起きるのではないのでしょうか。また、起こすべきです。どんな危機に際しても生きていけるプリミティブに生きる事が大事になってくるでしょう。

基本的には国内で経済が回り効率よく人材が活用される仕組みを作っていく事が求められるでしょう。例えば農業の繁忙期に他業種が手助けすると言った業種間がシェアしていく事なども進んでいくでしょう。建築設計事務所も仕事の出方としてむらが多く一物件にあるまとまった期間が必要な職業であり、事務所同士が人的設備的シェアをしていくのに有効な職業の一つでしょう。坪何万円もする都心部で所員数に応じたオフィス面積を確保する必要もなくなります。支店間の出張も減りそれは交通宿泊業にも波及します。

ここ2、3年耐え忍ぶための生活様式の変化ではいけないのです。世界情勢を鑑み日本の国力、少子高齢化、頻発する災害等広く深く考え、今の社会の仕組みを根本的に考え直す変革、さらには国民の価値観意識改革を促す機会ととらえ、慎ましい生活静謐な社会づくりと言った今後の生活様式そのものを「新しい生活様式」として作っていかねばならないと私は捉えています。

JIAの資格制度の展望と課題

J I A本部実務委員会 委員

市川清貴（福岡地域会）



現在の登録建築家の総数は1,702名。これはJ I A会員外も含めての数字ですが、正会員の登録建築家数は1,587名。現在のJ I A正会員数が3,573名ですので約44%。九州支部の登録建築家数が122人、正会員が270名ですので登録建築家率は全国平均並みです。毎年の更新者は約70~80%で減少傾向は続いています。

建築家協会発足以来、建築家法を制定し職能を確立したいという概念は建築家協会の根底にある大きな目的です。そのために建築基本法を制定し、日本の建築文化に沿い、建築基準法や建築技術者法である建築士法を包含した国づくりのための建築法体系を整備したいとする目標ははまだ霞の向こうにあり、一向に実現の気配さえありません。必要とする世論がない(民度の問題でしょうか)といえはそれまでですが、そこに働きかけなければいけないJ I A本体にもそこに動く気配は感じられません。登録建築家制度やCPDも同様、とにかくやれるところからやろうという見切り発車はしてみたものの、今ではルールも取り外されそうな状況です。ただ機関車(古い表現ですが)は走り続けておかないと車庫入りでは本当にさびてしまい動かなくなるのです。いや走ってなくても石炭はくべて、蒸気を溜める作業は必要です。

J I Aの財政の問題で2020年度から支部の登録建築家の認定評議会は廃止となり本部認定評議会に1本化されます。年間150万円の節約になるそうです。その節約に登録建築家の規則や細則や審査マニュアルなどをここ3、4か月かけて本部の資格制度委員会・実務委員会の委員が作業に膨大な時間を費やしそれらを改訂しました。もちろん無報酬です。私はその惜しめない努力に敬意を表します。私もメンバーでありながら他人事のようにと言われ

るかもしれませんが、古くからのメンバーは規則や細則の関連をすべて掌握しており、我々の実務に当てはめて表現すれば、実施設計完了後変更になった、ならばその変更に関わる個々の仕上げや納まり、面積表など関連した図面や部分をすべて洗い出し修正し齟齬の無いように調整しますが、規程規則などの改訂作業も同様で、皆さん作業をバリバリ進め、(とても新人の、と言っても2年過ぎましたが、私にはその関連修正はできない習熟度の高い作業なのです)何とか総会前の理事会に形を整え提出しました。これを書いている6月下旬にもまだ時折部分修正メールが委員の間で飛び交っています。まるで大地震の後の余震のようです。

本部の資格制度・実務委員会の活動は毎月の定例合同委員会を開催し、その時々発生した問題に対応する会議、新規登録や更新に関する事前・時中作業、支部実務委員会への作業指示、本部認定評議会の準備と開催等多くの作業を行っています。各支部から指名された委員で構成されています。登録建築家制度に熱心な方が多く、また委員の皆さんはこのことがJ I Aの存在意義だという気概をもって活動されています。

今後の資格制度は実績認定から実務訓練による認定に舵を切っていきます。またCPDなど更新に必要なもので資格制度・実務委員会主導のものはより取得しやすく、意義や価値のあるものになるように内容を検討していきます。

社会で機能する登録建築家制度であるべきですが、私見ながらいまだ認知度が低く、社会周知や機能発揮には長い道のりがあります。しかしながらこの活動の灯を消してはならない。登録建築家制度をもって建築家の職能を社会の定着させる「運動」として、九州支部会員の皆様にもご理解いただき、この活動を一緒に進めていきたいと思っております。

日韓学生ワークショップの軌跡と本年度の開催にあたって

今回トピックス担当の北福岡地域会ですが、本年度はコロナウィルスの影響で満足な

地域会活動が出来ていない状況が続いていますので、本地域会のメイン事業である「日韓合同学生ワークショップ」について、過去の歴史も振り返りながら、本年度の計画並びにPRも含め、記述したいと思います。



北福岡地域会
杉野 友紀

地域会の歴史と共に、一覧表を添付していますが、2000年よりJIA新人賞受賞者（初代は古谷誠章氏）を講師に迎え、セミナー及びワークショップを開催してきました。2001年より国際交流を目的に尾道先生を通して、親交のあった韓国の学生に声をお掛けして、「日韓合同学生ワークショップ」がスタートしました。

私自身は2011年にJIAに入会させて頂き、次年度の2012年と2013年に本企画の実行委員長を務めさせて頂いていますので、2012年の活動よりワークショップの内容を簡単に説明させて頂きます。

■ JIA北福岡地域会 建築展・日韓合同学生ワークショップ 開催一覧表 ■									
回	年度	講師		セミナー	プレWS 日時	ワークショップ		対象	備考(補足)
		氏名	組	テーマ		テーマ	場所		
0	1998	-	-	-	-	-	-	-	
1	1999	-	-	-	-	-	-	-	
2	2000	古谷 誠章	1	すまい_住宅	-	すまい_住宅	市立美術館 講堂	地元建築学生 +事務所若手	
3	2001	渡辺 真理・木下 廣子	1	建築のリストラクション	-	テレワーカーの家	TOTO 研修センター	地元建築学生 +韓国学生	
4	2002	中村 勇大	1	環境_ENVIRONMENT	-	環境_ENVIRONMENT	TOTO 研修センター	地元建築学生 +韓国学生	
5	2003	高砂 正弘	1	建築と自然 小さくてもできること	-	建築と自然 小さくてもできること	西日本工業大学 視聴覚室	地元建築学生 +韓国学生	
6	2004	透藤 政樹	1	構築への意思	-	構築への意思	TOTO 研修センター	地元建築学生 +韓国学生	
7	2005	福島 加津也・富永 祥子	1	できたての建築	-	できたての建築	九州共立大学	地元建築学生 +韓国学生	
8	2006	石黒 由紀	1	海から見る建築	-	海から見る建築	九州電力 北九州支店	地元建築学生 +韓国学生	
9	2007	小川 広次	1	時空を超える建築	10/20(土) 13:00-17:00	時空を超える建築	TOTO 研修センター	地元建築学生 +韓国学生	
10	2008	矢田 朝士	1	空間の意思	10/18(土) 13:00-17:00	空間の意思	TOTO 研修センター	地元建築学生 +韓国学生	
11	2009	山梨 知彦・羽鳥 達也	1	建築をチームで考える	-	-	-	-	
12	2010	手塚 貴晴(セミナー) 横河 健(WS)	2	緑と建築	-	海と森と建築	北九州 国際会議場	地元建築学生 +韓国学生	JIA全国大会主幹行事として、優秀作品を製作・展示
13	2011	中村 拓志	1	ふるまいのデザイン	10/22(土) 13:00-17:00	ふるまいのデザイン	西日本工業大学	地元建築学生 +韓国学生	
14	2012	西田 司・中川 エリカ 小泉 瑛一	1	対話的建築のつくりにかた	10/27(土)	まちにひらく。まちをひらく。 オープンな建築、 オープンなコミュニティ	ブッペンハウス ・ミュージアム	地元建築学生 +韓国学生	商店街の空き店舗を対象として、初めて街に繰り出でのWS
15	2013	前田 圭介	1	環境が生み出す人の つながり	10/26(土) 13:00-16:00	100年後の黒崎商店街を 建築家と考えてみませんか	黒崎コムシティ	地元建築学生 +韓国学生	
16	2014	矢板 久明・矢板 直子 長田 直之	2	かわらざるもの/ ばらばらなものがいっしょに いるのがばらばらだ	10/25(土) 13:30-16:00	まちなかスタジアム	AIM	地元建築学生 +韓国学生	実現を目的とした、フロアへの改修を 提案
17	2015	原田 真宏・原田 真魚 永山 裕子/長田 直之	3	マウントフジの建築/ 建築といろっかけ	10/17(土)	まちなかスタジアムの 活用とまちづくり	AIM	地元建築学生 +韓国学生	セミナーは原田真魚、永山さん WS指導は原田真宏、長田さん
18	2016	柳澤 潤/河内 一泰	2	まちのリノベーション	10/22(土) 13:30-16:00	まちのリノベーション	JICA九州	地元建築学生 +韓国学生	商店街の活性化を目的としたWS ブレでは初めてのリモート指導を実施
19	2017	栗原 健太郎/松岡 聡	2	人の生活で建築が消える とき空間が生まれる /敷地をつくる	-	風景とコミュニティのため のしなやかなデザイン	日本文理大学 湯布院研修所	地元建築学生 +韓国学生	湯布院で2泊3日の合宿形式で開催
20	2018	馬場 兼伸/近藤 哲雄	2	いくつかの形式・物事とし ての建築/建築と環境	-	小さくて大きな都市計画	北九州ハイテ ク港ハウス	地元建築学生 +韓国学生	門司港を対象に2泊3日の合宿形式で 開催。20周年事業
21	2019	百田有希	1	人を愛する建築	-	あなたの街と祭	門司赤煉瓦ブレ イス	地元建築学生 +韓国学生	1日だけのコンペ形式で開催

※2012～2018年までは地域の具体的な場所を課題にして、学生に提案して貰っています。

2012年「まちにひらく。まちをひらく。」

講師：西田 司・中川 エリカ

北九州の副都心黒崎商店街をテーマに開催しました。地元商店街と協議を重ね、空き店舗を10件ほどお借りし、学生は担当の各空き店舗に入りその場で制作作業を行いました。西田氏は商店街関係者と共に店舗を練り歩き、その場でのプレゼンに対し指導・講評しました。学生の学びとは別に、地元住民を巻き込み、地域に対する当事者意識を持って貰うため、ラジオの生放送、新聞取材、市長の来訪等も調整し、企画しました。

**2013年**

「100年後の黒崎商店街を建築家と考えてみませんか」

講師：前田 圭介

前年同様黒崎商店街を対象に、前田圭介氏をお招きし開催しました。テーマの主題として、“建築は未来を担うもので、考える上で100年先を見据える必要がある”という事であったのですが、学生の解釈は少し異なっており、近未来的な都市の提案が多かったのが印象に残っています。黒崎駅前を通り過ぎりの一般市民の方に声掛けし、専門外の客観的な意見を聞き、提案の枠を拡げる試みも行いました。

**2014年「まちなかスタジアム」**

講師：矢板 久明・直子、長田 直之

場所を小倉へと移し、建設予定だった北九州スタジアムについて行政も巻き込み、実際の計画を学習した上で、スタジアムや周囲のインフラ整備について様々なアイデアを提案しました。新人賞受賞者2組を招いた初の試みでもありました。

**2015年「まちなかスタジアムの活用とまちづくり」**

講師：原田 真宏・真魚、永山 裕子、長田 直之

昨年同様に北九州スタジアムを対象に、次年度オープン予定だった北九州スタジアムとJR小倉駅との間にあるテナントビル1フロアの改修計画をテーマとしたWSでした。実現に至りませんでしたが、ビル関係者を巻き込み、優秀な提案の実現を目指して開催致しました。

**2016年「まちのリノベーション」**

講師：柳澤 潤、河内 一泰

鉄の街だった八幡東区の商店街に舞台を移し、高齢化・老朽化の進む商店街の問題に取り組みました。商店街関係者より生の声を聴き、参加した学生を含め我々にとっても良い学びとなりました。

**2017年**

「風景とコミュニティのためのしなやかなデザイン」

講師：栗原 健太郎、松岡 聡

湯布院にある大学の保養施設をお借りして、2泊3日の合宿形式でのワークショップとなりました。当日は台風が直撃し、まさに現場は缶詰状態となりました。徹夜で作業した学生も多く、あちこちで転がっている姿が印象的でした。課題は熊本地震で被災した当保養施設への提案でした。

**2018年「小さくて大きな都市計画」**

講師：馬場 兼伸、近藤 哲雄

舞台を北九州市門司区に移し、前年同様の2泊3日の合宿形式でワークショップを行いました。門司区を区分けし、各担当ゾーンを提案して貰い、最終的に模型を繋ぎ合わせ、新たな街のあり方を提示するという壮大な企画でした。また、当年は日韓WS20周年事業でもありました。

**2019年「あなたの街と祭」**

講師：百田有希

1日だけのコンペ形式とし、新たな同ワークショップの企画を模索しました。地域の祭りと建築の関係を提案する課題で、地元北九州、久留米、博多、山鹿、釜山、



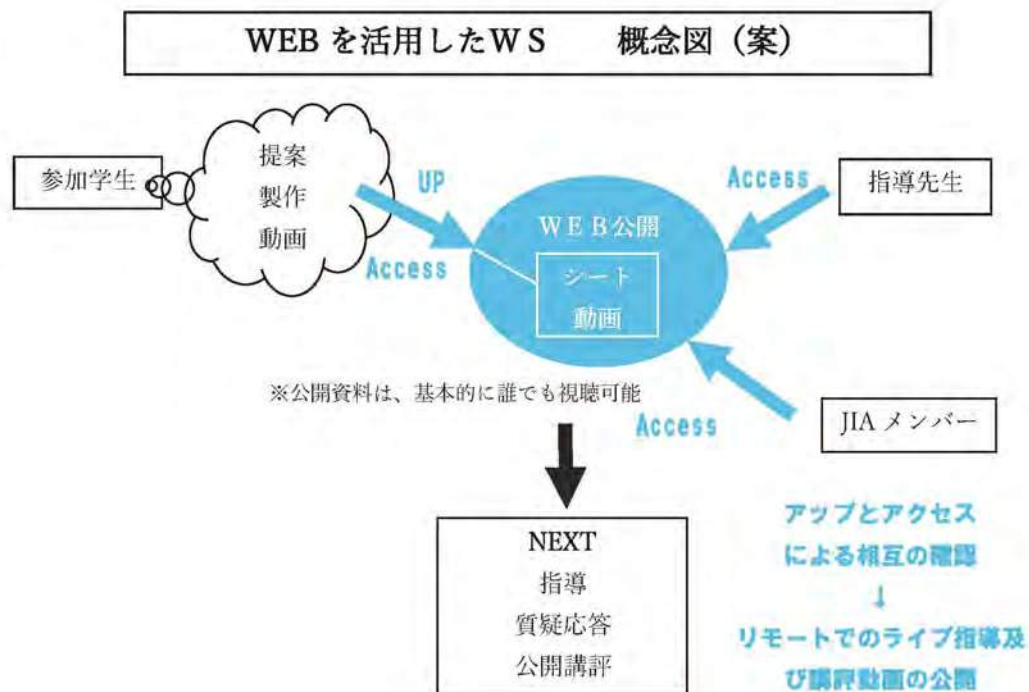
2020年「日韓学生ワークショップ」 講師： 中山英之（予定）

本年度のWSはコロナの影響により、通年の集合形態での開催は難しいと判断し、WEBを利用したリモート方式でのWSの開催を企画しています。通常の代替え手段としてではなく、今後（コロナ後）の新たなコミュニティのあり方を提案出来るWSにしたいと考えています。

Webの利点として、Live（生）とRecording（録画）を同等に混在させる事が可能だと考えています。また、公開の場（Web上）に対しては誰でも何時でもアクセスする事が可能なため、時間の制約を限りなく少なく出来ると考えています。また、同時に距離の問題もなくなるため、例年WSにはスタッフも含め100名程度の人数が同時に集まる必要がありました。Webの活用により物理的な問題が解決すると期待しています。

以下、本年度のWebを利用したリモートでのWSの提案及び概念図を示します。

- ・各提案（プレゼン）は動画で製作し、参加者共有の場にアップする。
- ・案は基本的には公開とし、公開された提案に各自（関係者）がアクセスし、事前確認・批評を行う。
※翻訳が必要な案は、事前に関係者による編集を行った後にアップ。
- ・各案に対しての指導は、Web上Liveでのディスカッションによる個別指導、もしくは関係者による評論ディスカッション動画を作成し、共有の場にアップする手法とする。
※LiveとRecordingを混在した複数の公開を予定。
- ・最終講評のみ公開ライブ形式のリモート講評会とする。



「日韓合同学生ワークショップ」は例年100名近くの学生が集まり、現場には日本語、韓国語、英語が入り混じる、国際色豊かな独特な事業になっていました。身振り手振りのコミュニケーションも含んだ学生間のリアルな交流は、地域の学生にとってなかなか経験できない企画でありました。しかし、コロナウィルスの影響によりコミュニケーションの形が今後変化していくであろうという中で、我々も新たな企画に挑戦する事に意義があると考えています。開催情報については今後支部HP等でも告知していきますので、今後の会員皆様のご支援・ご協力の程よろしくお願い致します。

私の仕事の原点

木場 耕志（長崎地域会）



六月に創業五十周年を機に、五月末で社長を退任しました。弊社は、昭和四十五年亡き父が創業、私が高校三年生でした。下の写真は、九州工業大学桃源寮の仲間と供に写った写真です。寮生が男子ばかり約四百名という大所帯、父が創業したばかりで経済的に厳しく、四年間寮生活でした。四人部屋で、寝食を供にする寮生活でした。厳しい寮環境で、同じ高校から入寮した三人は、耐えきれず出ていきました。私は良き先輩にも恵まれ残りました。写真を見ればわかるように、若々しく躍動感溢れる様子がみなぎっています。“なつかしい” “あの若々しさを取り戻したい” これは叶わぬ夢ですが、今でも一人の先輩と交流があり、お会いするたびに昔話をつまみに飲んでいます。

もう一つの活力の原点は、私の故郷です。私は長崎県西海市（旧崎戸町）の生まれです。炭鉱で栄えた町でした。長崎県では、松浦、江迎、鹿町、大島、池島、高

島、端島（軍艦島）そして崎戸と戦前から戦後にかけて、日本全国からたくさんの方が仕事を求めてきました。活気があった一方、血の気の多い人も多く、喧嘩も頻繁で怖い思いをしたこともありました。旧崎戸町は、全盛期約二万六千人でしたが、今は千人あまり、まさに栄枯盛衰です。閉山になる中学三年生の年は、毎週のように蛍の光で友人を送った寂しい光景が未だに忘れられません。その翌年、私は長崎市の高校へ進学しましたが、高校三年間の下宿生活を通し、田舎とのギャップを味わいました。それと同時に負けてたまるかと自分に言い聞かせて過ごしたことを覚えております。

五十年近く、この業界で頑張ってきたのは、故郷崎戸、そして高校、大学の七年間が支えになっていると思います。

JIAは設立以来活動させて頂いています。地域会会長も務めさせて頂きました。全国大会では、日頃見学できない場所へ見学もたくさんできました。感謝申し上げます。これからもまだ会長として在籍しております。今後ともよろしく願い致します。



私の仕事の活力の原点です。

私の珈琲履歴書

菅 隆幸（宮崎地域会）



戦後復興掛け出しの頃、離島の田舎で生まれ育った私が、いつ頃から珈琲を飲み始めたのかはよく覚えていません。小学生の頃はインスタント珈琲を少し飲んだだけで何故か頭痛がしていました。それから暫く茶色（＝珈琲色）が嫌いな時期がありました。1969年、東京に出て知り合った友人に誘われて入った喫茶店で、初めてモーニングサービスなるものに出会いました。その頃のモーニングには珈琲にトーストかゆで卵が付いて120～150円位だったかな。その当時はまだ珈琲に砂糖を入れていました。翌年大阪の十三に移り、美術学校に通い始めてT先生と知り合いました。当時、喫茶店等では店名入りマッチを作ってお客さんに配っていた時代です。T先生がマッチのデザインをした珈琲専門店“赤とんぼ”（十三に現存）と一緒に行き店のマスターを紹介して頂きました。この店との出会いが私の珈琲人生の始まりです。それから時々通うようになり、店で一押しのレストランブレンド（豆はイタリアンブレンド）を飲み始めてから、苦み・コク・キレのある（ビールではありません）深煎り珈琲に引き込まれていくうちに、いつの間にか砂糖とはお別れしていました。大阪時代は建築探訪を兼ね、村野さんや安藤さんの手がけた喫茶店（現存せず）なども訪ねました。“流行の喫茶店”には目もくれず“こだわりの珈琲”を探して電車を乗り継ぎ、又友人の車に便乗してあっちこっちに足を延ばしました。芦屋でライトの旧山邑邸を探し当てたのもこの頃（1970年）でした。

私は元々酸味（発酵・醸造物・アルコール類）が苦手

だったので、世の中では一般的なキリマンジャロやモカなどのストレート珈琲は酸味が強いので敬遠して、今でも深煎り苦めの珈琲（後でイタリアンブレンドと知りました）ばかりです。余談、近頃のカフェはお洒落すぎて私には似合いませんが、スターバックスの裏メニューに好みの珈琲を発見しました。

1974年秋に宮崎に移り、未だ日も浅いある日、役所帰りに橘通りを歩きながらちょっとお茶でもと思い、“アロマ”という珈琲店（現存せず）に立ち寄ったのが、さらに珈琲に嵌るきっかけになりました。当然ブレンドを注文するわけですが、ブレンドが3種類。『一番美味しいブレンド』と伝えると、店員さん（マスターの奥様）が、『イタリアンを差し上げます』と自信を持って勧められました。どんな味が出てくるのか楽しみに待っていると、なにやら得体の知れない機械を操作している様子。思わず『何ですか、それ』と口に出てしまいました。当時としては珍しいエスプレッソマシンだったので。初めて見る機械に興味深く操作を見ながら... 『へー』。珈琲豆を微粉にして専用の容器に入れセットし、機械の中で作られた蒸気を圧力を掛けて抽出させると聞いて『ホー』。当時のエスプレッソマシンはまだ電動のものは少なく、レバーの付いた手動式でしたが、軽やかなジューツという音と共に芳ばしいコクの深い良い香りが漂ってきました。これなら間違いないと確信しま



した。泡立った珈琲カップにシナモンスティックが添えられていて、好みに応じてシナモンの香りを溶かすのだとの説明に再び『へー』。早速一口頂くと、キレとコクの中にほのかにシナモンの味の喉から鼻に抜けて、何とも言えない味わい深く心地よい時間に浸りました。これも後から知ったことですが、珈琲を最初に味わうときにはスプーンにすくった珈琲をズッと小さな音を立ててすするように口に入れるのです。カップングと言って、珈琲の味を見極める方法です。昔の珈琲専門店ではよく行っていたようですが、最近は見なくなりました。私はただの珈琲好きですから味の見極めは難しいので、自分の好みに合うかどうかだけ確認しています。最近の珈琲店には好みの味が無いことが多く、そもそも珈琲専門店を見かけなくなったのは残念です。

珈琲はとても身近な飲み物ですが、味の奥が深くいつも良い味がコンスタントに出せないところが面白いのです。淹れ方や器具についても様々で、究めることは難し



いのですが、その挑戦が楽しいのです。

私は最も手軽なペーパードリップですが、なかなか極めつけの味に出合いません。豆はチモトコーヒー（代理店経由のメーカー直配）のイタリアンブレンドを45年程愛飲していますが、時々昔を思い出してより苦みの強い豆を“赤とんぼ”から取り寄せもしています。飲み比べもまた楽しからずや、です。珈琲は、豆の種類やブレンド、焙煎の程度、抽出器具とそれらの組み合わせによって無限に広がりますが、私は豆こそが一番重要だと思っています。自分に合う豆を見つけることに尽きます。因みに私の愛飲のイタリアンというのは、酸味を抑え苦みが強く出る3~4種類の豆をブレンドし、最も深入りに焙煎したものの名称で、メーカーや珈琲豆専門店、また自家焙煎の珈琲店などによって、豆の配合や焙煎の程度が違いますので、更に楽しみが広がります。

最後に一度やってみたい珈琲の入れ方をご紹介します。珈琲豆を配達してくれる代理店の方の話です。市街地から離れた地域に営業に出かけて、人里離れた場所で珈琲が飲みたくなることがあるそうです。仕事柄珈琲豆や簡単な容器は常備しているそうですが、専用器具等は持ち合わせて無い。せせらぎの近くに車を止め、川の水、持ち合わせていた金属製ボール、河原で小さな木切れや葉っぱを集めて、車のたばこ用のヒーターで着火、珈琲豆は粒のままなので適当な石の上に乗せて小石で叩いて潰します。ボールに潰した豆と適量の水を加えて軽く沸騰させて少し待ちます。煮出した珈琲の上澄みを紙コップなどに入れて飲むそうです。野性的、原始的な方法で淹れた珈琲は格別な満足感があるそうです。話を伺ってから何年もたってしまいました。一度は体験してみたいと密かに願っている今日この頃・・・



池田 剛 (長崎地域会)

この度、JIAに入会致しました池田と申します。長崎を中心に仕事を行なっています。地方なので、戸建て住宅・共同住宅・教育・宗教・医療・福祉・公共などの建築と多岐に渡り40数年手掛けてまいりました。設計を職業としいるものとしていろんな経験をさせて頂きました事を感謝しています。中でも、大学の卒業研究で、重度身体障がい者の住宅改修に取り組んだ事は、建築設計の仕事に携わる礎となりました。建物は、誰しものがバリア無く移動でき、誰しものが安全で使いやすいものでなければならぬという思いを胸に仕事をしてきました。今後も初心を忘れずに頑張っていきたいと存じますので、よろしくお願ひします。



志賀 隆行 (鹿児島地域会)

鹿児島、福岡の2拠点で建築設計に携わってる志賀建築設計室の志賀隆行です。大学では3Dモデルを扱うCAD系の研究室にいたので、BIMを使った設計手法に興味があります。コロナ禍の昨今、県外の現場の工事監理をリモートワークで行っています。今後の建築設計業務のあり方が変わっていくのを実感しております。JIAは昔から興味があって敷居が高い印象がありましたが、今回思い切って所属させて頂くことになりました。どうぞ宜しくお願い致します。

委員会報告 reports

新委員長紹介



広報委員会委員長

川津悠嗣 *hiroshi kawatsu*

皆さんこんにちは。今期の広報委員長を務めます福岡地域会の川津悠嗣です。支部長在任中の2年間、皆様には大変お世話になりました。在任中の広報委員会ではホームページの刷新と九州支部会員広報誌「ブルテン」の電子化に取り組みました。新ホームページは既に運用を開始して、今後は皆さんがより利用しやすくするための微調整を行います。「ブルテン」も電子化しております。これからさらに支部会員の活発な交流に役立つような身近な広報誌に進化していきたいと考えています。皆様のご指導・ご助言をお願いします。(福岡地域会)



表彰委員会委員長

鰯坂 徹 *toru ajiasaka*

表彰委員会と修復塾WGを担当している鹿児島地域会の鰯坂です。30年間三菱地所設計で設計した経験を生かして7年前から鹿児島大学で設計を教えています。前職時代からJIA建築優秀選TFを担当し現在主査、表彰委員会の委員となっています。今年からWEBエントリーとなります、みなさん多数、ご応募ください。修復塾は10年ほど本部再生部会長をつとめ、東日本大震災の文化財ドクターと実務での近現代建築の保存再生の経験を活かしたいと思います。(鹿児島地域会)



建築家資格制度実務委員会委員長
市川 清貴 *kiyotaka ichikawa*

「JIA会員はすべて登録建築家であるべき、新会員は同時に登録建築家となる」という形になっています。（現在約3,500名の会員中葉1,600名の登録建築家。）JIA有志会員の多大な努力と、本部理事会で膨大な協議時間をかけて社会にデビューした登録建築家資格はいまだ世間に認知されず、現在とりあえず内部で温めている状態です。日本の社会の中で建築家の役割が縮小傾向に変質していくことの象徴にならないように、建築家の職能の社会認知の「運動」としての登録建築家制度を皆様にご理解いただきたいと思ひます。（福岡地域会）



業務委員会委員長
和田 正樹 *masaki wada*

業務委員として3期目となりますが、今まで同様 支部・地域会への委員会活動のポイントとなることを伝えられるようにしたと考えています。コロナ騒動の後、我々の周りも変化していくはずですが、JIA活動も柔軟に対応していく必要があると思ひています。（福岡地域会）



JIA災害対策会議委員長
原田 展幸 *hiroyuki harada*

2016年の熊本地震経験を経て、2018年度からJIA災害対策会議の九州支部委員長を仰せつかりました。被災地としての経験から感じることは、災害時における会としての動きもさることながら、個人としては他会にも属しているケースが多く、特に士会・事務所協会との連携をうまく機能させることが求められます。その中においてJIAが得意とする分野、会員特性を生かした取り組みを模索し、地域事情を加味した上で活動に生かすことが重要ではないかと考えています。（熊本地域会）



保存再生会議委員長 九州支部委員長
田島 正陽 *masaharu tajima*

昨年に続き全国保存再生会議の副議長も務めます。昨秋青森県弘前市で行われた全国大会は「生き続ける近代建築とまちづくり」のテーマでした。市庁舎をはじめ多くの前川国男設計の近代建築が大切に使われ、また市民が前川建築に誇りをもって生活している様子を感じ取ることができました。大会での保存再生会議年次フォーラムでは大牟田市庁舎の保存について取り上げ議論し、歴史的価値のある建物として認識できました。今年度はこの庁舎の保存再生に向けて活動したいと思ひます。（福岡地域会）



JIA環境会議委員長
福田展淳 *hiroatsu fukuda*

大学では、杉105角を多用する木造住宅や集成材・CLTによる木造構法、圧縮木材・不燃木材、トロンブウォールや住宅の床下結露問題などの研究を行なっています。今年は、環境会議の活動として、改正省エネ法に関する自主勉強会を開催する予定です。建築物省エネ法の段階的施行により、建築士から建築主に省エネ性能に関する説明が義務化されるなど、建築設計業務にも大きな影響がでると思われますので、ご関心のある方は、是非ご参加いただければ幸いです。（北福岡地域会）



JIA建築相談会議委員長
有吉 兼次 *kenji ariyoshi*

建築相談は私達の職能や豊富な経験を生かして市民が抱えている種々の問題解決に努めたり、未来への道標を示す活動を行っています。社会が大きく変わり相談内容も多岐に渡って変化してくると思ひます。建築相談を通じて市民とJIAをつなぎ、信頼され相談できる環境づくりに努めていきたいと思ひます。（福岡地域会）

報告事項

③ 本部委員会・特別委員会活動報告

1	総務委員会	下山道男 (6月総会までは松山さん)
本部理事会議事内容＝総務委員会の活動		
2	広報委員会	委員長：川津悠嗣 副委員長：有吉兼次
支部広報誌ブルテン第1号を6月末発行準備中 本部広報委員会への支部からの参加は新年度より (別添付資料)		
3	教育委員会	田中康裕
3月のリフレッシュセミナーが、中止になってから、委員会の動きない。 総会以降、新たな委員でのスタートになる。		
4	表彰委員会	鯉坂徹
今年度のJIA各賞の実施について、各賞のTFで検討し、今村委員長がとりまとめています。 大賞・優秀選 実施予定 現地審査の状況により公開審査や受賞発表が遅れる可能性あり ・環境建築賞 応募が開始されており、例年通りの予定 ・新人賞 検討中 ・25年賞 検討中 (ただし、すでに応募中) ・あかりコンペ 中止確定 いずれもメール等のやりとりで検討しております。 上記は先日の理事会で報告されています。 なお、学会の建築選集は中止と聞いており、是非、JIA日本建築大賞・優秀選にご応募をおまちしています。		
5	建築家資格制度実務委員会	委員長：市川清貴 副委員長：佐々木寿久
1.本部職能・資格制度/建築家資格制度実務合同委員会では、次年度より支部建築家資格認定評議会を廃止し認定評議会 (本部のみ) にすることで、建築家資格制度規則・細則・審査マニュアル・登録管理マニュアルの変更作業をほぼ終えた。 6月理事会承認から総会承認を経て決定される。・・・理由は各支部認定評議会経費150万円を削減するため。 2.上記に伴い支部実務委員会、本部実務委員会が内容を充実させ認定作業の事前準備・バックアップを行う。 3.今後の上記合同委員会は実務訓練による新規登録のための実務訓練ノートの整備、CPDのWEBによる取得、申請簡素化・書式書類の整備を行い、本来の登録促進、更新促進を図る。 以上2020年6月3日の上記合同委員会WEB会議にて。		
6	財務委員会	柴田真秀
6月16日 (5月28日予定が中止) 開催予定		
7	業務委員会	和田正樹
特に報告事項なし		
8	全国学生卒業設計コンクール実行委員	田中康裕
6月2日に委員会開催。10月3日に決まったweb開催について、プレゼン時間、提出物について、協議した。 (資料：報告事項1)		

報告事項

④ 全国会議活動報告

1	JIA災害対策会議	原田展幸
	本部委員会構成表（資料：報告事項2）	
2	JIA保存再生会議	田島正陽
	3月4日 集合会議あり（資料：報告事項3）	
3	文化財修復塾	鯨坂徹
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各支部ともコロナの影響で活動はできていない。 2. 総括講義はで行われ13名の参加があった。内11名の認定を行う 3. 修了者の名称「ヘリテージアーキテクト」の協議中 4. 日本建築まちづくり適正支援機構との協力関係について協議中 5. コロナの状況下での現地講座について協議 	
4	文化財ドクター	柴田真秀
	報告事項なし	
5-1	JIA建築相談会議	有吉兼次
	・JIA建築相談会議（全国）：活動報告なし	
5-2	・JIA九州支部建築相談委	有吉兼次
	5月25日 福岡 築13年の外壁がずれ落ちる家の相談予約(6/11相談実施予定)	
	6月1日 4,5月は感染防止のため建築相談を自粛。6月より活動再開	
	6月1日 大分 建築条件付土地、建物を契約する前の相談予約	
	6月4日 各地域会建築相談室長に建築相談書類セットをメール配信	
6	JIA環境会議	福田展淳
	Web会議が行われ参加した 理事会・総会への報告事項等の確認	
7	JIAまちづくり会議	松島逸人
	前任の馬場さんから、4月末に本部の亀井委員長から連絡があるがず・・・から早1か月。未だ連絡無です。首都圏もコロナの渦中で大変なのかと推測しています。	
8	JIA25年賞特別委員会	下山道男
	検討中（ただし、すでに応募中）	



北福岡地域会会長

杉野友紀 *tomonorisugino*

本年度より北福岡地域会の会長を務めます杉野建築設計事務所の杉野です。どうぞよろしくお願い致します。自己紹介という事ですので、JIAの活動をする上での私個人の考えを少し書かせて頂きます。我々の職業は社会の活動により仕事をしていますので、それを職能によって社会にお返しする義務があると思っています。そのためには、建築家ももっと地域の問題に積極的に関わる必要があります、JIAというのはその機会を、私達に与えてくれる団体だと思っています。また、次世代の建築家育成は我々の大切な使命だと思います。幸いにも北福岡地域会には20年継続している「日韓学生合同ワークショップ」という事業があります。改めて事業の意義を見直しながら、時代のニーズに対応し、柔軟に引き継いでいければと思っています。これから2年間は、地域会の活動を通して、地域に対して、また若手の育成に対して出来る事を模索しながら行動したいと思っています。どうぞ、よろしくお願い致します。

福岡地域会会長

福田哲也 *tetsuya fukuda*



2020年度の福岡地域会は、あらためて「入りたいJIA」を目指します。JIAの意思を引き継ぎ、未来のJIAへつなぐべく、その活動をより活発に、より分かりやすく発信していきます。また、建築家としての研鑽を重ね、協力会ともしっかり連携を取りながら、更には他団体との連携も密にして、これからの社会におけるJIAの存在意義を、しっかりアピールできる地域会にしたいと思えます。今年度も九州支部会員の皆様どうぞ宜しくお願い致します。



佐賀地域会会長

野中 毅 *tsuyoshi nonaka*

私は地元佐賀で公共建築を中心とした設計を行っております。また、佐賀地域会会長として3期目となりました。今年は非常事態宣言が発令され、活動自粛を余儀なくされ有意義な活動ができない状況です。佐賀地域会としては、まず正会員の増強、さらに協力会員を募り、地域会を活性化させようと考えております。また、定期的な例会（協力会員の講習会を含め）の実施、役員会の参加、さらに他の地域会との交流を行っていく予定です。今まで以上に佐賀地域会が有意義で、情報発信が多数できるような会を目標に運営を行っていく所存です。



長崎地域会会長

田中健一郎 *kenichiro tanaka*

今年度から長崎地域会会長を務めて参ります田中健一郎です。公益社団法人日本建築協会の理念に基づき九州支部や本部と連携した活動や情報提供を行います。会員のアプローチとして支部や各地域会及び協力会員との交流、次代を担う建築家を育成する活動、技術セミナー、建築作品展、研修など勉強会の企画・運営、新入会員の増加推進、地域社会へのアプローチとして美しい建築やまちづくりに関する講演会の開催、インターンシップ事業の展開を行い長崎地域会の活動を広く県民に発信していきたいと思えます。



熊本地域会会長

堀田 実 *minoru horita*

【挑戦する地域会をめざして】

この度熊本地域会会長を仰せつかりました。事務所は熊本市内で公共の仕事の比率が多い状況です。熊本地震のときには皆さんに本当にお世話になり入会のきっかけになりました。現在では地震関連の仕事は一段落したように思います。

唯一の1級建築士のみによる職能団体であるJIAは高度な専門性と品格・見識を併せ持った集団であり、社会からの期待や貢献の可能性は実に大きなものがあります。地域会として新しいことに挑戦し活動をさらに深めて行く一助となれば何よりだと考えています。



大分地域会会長

重田 信爾 *shinji shigeta*

この度、大分地域会会長を拝命致しました(有)アトリエ間居 重田信爾です。JIAとの関わりは故辻隆司先生(元九州支部長)に師事した際からスタートしました。その後、衛藤元弘所長の下で、2006年から大分地域会下部組織「+A」としてJIA活動により密接に関わらせて頂き、2011年に入会して現在に至ります。大分地域会会長となりましたが、会員の皆様からお力添えを頂きながら、微力ではありますが尽力していきたいと考えています。



宮崎地域会会長

越山 明典 *akinori koshiyama*

宮崎地域会の越山です。地域会会長を3年間させて頂きましたが、2020、2021年度も継続させていただくことになりました。この2年間は、新型コロナの影響下でのJIA活動になっていくのかもしれないと思いますが、このような厳しい状況下の中でも出来ることを模索し、可能な限り活発な活動をしていきたいと考えております。しかし宮崎地域会だけではメンバーも限られていますので、支部活動及び他の地域会活動に積極的に馳せ参じていきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願いします。



鹿児島地域会会長

肥後 潮一郎 *tomoichiro higo*

鹿児島地域会の代表の肥後です。私が地域会の代表になるにあたってこの2年間でやりたいことは、会員の建築のスキルアップ活動と地域に役立つ活動の2つです。鹿児島の地域特性と建築を結びつけて、地域の活性化をはかる活動を展開したいと考えています。このようなコロナの状況ではありますが、3密を考慮しつつできる範囲の活動を会員の皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っています。

活動スケジュール

○4月

- 15日：北福岡地域会第33回通常総会
- 18日：九州支部第1回役員会
→Web会議（参加者：松島、杉野）

○5月

- 12日：北福岡地域会第1回役員会
- 22日：九州支部第33回通常総会
→Web会議（参加者：塩釜、松島、杉野）
- 28日：北福岡地域会第1回特別運営委員会

○6月

- 4日：北福岡地域会第2回役員会
- 10日：北福岡地域会第2回特別運営委員会

※特別運営委員会は地域会メイン活動である日韓学生WSと九州支部大会の合同委員会

地域会長あいさつ

地域会長：杉野友紀

地域会総会による承認を受け、今期より北福岡地域会の地域会長を務めさせていただきます、杉野と申します。私は2010年にJIAに入会させて頂き、2016年より地域会役員、2018年より九州支部に幹事として参加させて頂いています。

地域会長として、建築活動による地域への貢献並びに団体の認知と次世代の建築家育成を目標に活動していきたいと思っています。

これから、どうぞよろしくお願い致します。

本年度の当地域会事業として、例年のメイン事業である日韓の学生による合同ワークショップと支部からの担当事業である九州支部大会の合同での開催を検討しています。但し、現状コロナウィルスの影響により、北九州も深刻なダメージを受けており、例年通りの開催が難しい状況になっています。地域会としては新たな形態の企画を模索している段階です。

支部大会開催に関しましては、支部の皆様にもご迷惑をお掛けすると思いますが、今後のご協力の程よろしくお願い致します。

北福岡地域会第33回通常総会

- 日時：令和2年4月15日水曜日18：00～19：00
- 場所：スズキ設計
- 参加：松島、金子、熊谷、塩釜、戸村、杉野
- 報告事項
・書面決議により当会員数46名の中、書面表決者21名、委任状15名の計36名にて総会の成立

□新役員構成

地域会長：杉野友紀
副地域会長：塩釜直人、戸村一樹
幹事：三迫靖史、永澤正哉、松島逸人、金子英造
監査：安東秀夫、小川宏
相談役：服巻良樹、熊谷平一郎

北福岡地域会第1回役員会

- 日時：令和2年5月12日火曜日18：30～20：00
- 場所：Web会議
- 参加：塩釜、戸村、永澤、三迫、杉野
- 主な報告事項
・鍵本英雄氏の退会届の承認
・日韓合同WSの開催について、コロナの影響により例年通りの開催は困難と判断。また、大学（学生）自体も授業時間が不足している状態で参加は難しいと考える。
→大学の先生達と事前に協議を行う
・九州支部大会の開催についても上記と同じ状況。支部の意向もあるが、一度地域会として開催の可否を検討している。

北福岡地域会第1回特別運営委員会

- 日時：令和2年5月28日木曜日18：00～20：00
- 場所：Web会議
- 参加：安東、加藤、金子、後藤、塩釜、高濱、戸村、杉野
- 主な協議事項
○九州支部大会開催について
・コロナの影響がどのように推移するのか想定出来ないで、コロナありきで考える必要がある。その場合、コロナ対策をどのように実施するのが開催の大前提。
・地域会として、開催する事による責任をとれないので、仮に開催するのであれば、開催出来ると判断に値する客観的なガイドラインを支部の方で示して欲しい
・軒並み各種大会が中止及び延期されている現況にあって、仮に開催時期の状況がどうであれ、開催する事による団体のモラル・ハザードが問われないか？
・リアルでのコロナ対策が現状想定出来ないのならば、Web形式での大会を模索してみればどうか？新たな形式の大会を提示できるのなら実施する意味があるのでは
・両方で準備を進めていくのは無理があるので、手法を早期に決める必要がある。
○日韓WS開催について
・例年通りの開催は中止し、Web開催に絞り進めていく
・Web形式であれば、支部大会とリンクする事も容易なので、地域活動のPRにもなり得る。
・今回のコロナにより、仕事・社会の形態は変わっていくと考えられるので、我々自身にとってWeb形式でのリモート開催に意味があると思う。

北福岡地域会第2回役員会

- 日時：令和2年6月3日火曜日18：30～20：00
- 場所：Web会議
- 参加：金子、塩釜、戸村、永澤、松島、三迫、杉野
- 主な報告事項
・(株)アイ・エル・シー様の協力法人の承認
・九州支部大会について、本年度における例年通りの開催は難しいと判断し、支部の方へ次年度の延期を要望する事を決定。
・上記Web開催の可能性について、地域会としても事例がない事なので、まずは当地域会の事業である日韓WSで経験を積み、次年度社会状況により提案を行う。
・日韓学生合同WSについてはWeb開催で検討していく。Web開催が困難な場合は今年度のWSは中止とする。
・建賛会主催の合同ビアパーティは中止の方向

4月18日 福岡地域会新旧役員会 (第1回)

■日時：2020年4月18日土曜日11：00-12：00

■JIATV会議システムによるWEB方式

■参加人数：13名

第8回役員会議事録確認

■審議事項

1.入退会について 特になし

■協議事項

1.通常総会 (WEB形式) について

① 議案の説明

議案第2号 収支計算書についての報告と協議 議案第3号地域会規則変更の件 議案第4号新役員選任の件(案)までの協議を行った。

② 総会進行・役割確認

WEB会議であるが、次第、進行については通常どおりすべての項目を行う。議長については通常の対面方式の場合その場で議長を募るが、WEBでは難しいその場にいる人に募る事ができない

③ 2020年度JIA九州支部福岡地域会役員会開催日程

スケジュールを承認

2.その他 支部と地域会の会計について

■報告事項

1. 会長報告 (佐々木地域会長) 名誉会員への推薦について、支部を通して本部に資料を提出しました。

2. 支部長報告 (川津支部長)

・3月の理事会開催された・事務所協会と士会の三会でコロナ対応について会議を行う予定。・事務局の吉瀬事務員の件で、時差通勤や日にちを限定して出勤してもらい在宅に切り替える方向性を考えている。・本部とのやり取りは本部側が一部出勤しているので、今後の検討が必要。・緊急メールを支部長と事務局が受け取れる体制にしておくべき

3.その他 ・構造の専門家の正会員申込の件・新型コロナの影響のため予算を緊縮していく方向で検討を希望する。



第1回 福岡地域会新旧役員会風景

5月22日 2020年度福岡地域会通常総会

5/22 16時17分よりJIATV会議システムにて初のWEBによる2020年度JIA九州支部福岡地域会通常総会が開催されました。総会出席数や委任状、書面決議数の合計により総数の過半数をこえ、総会が成立しました。

議長に前田会員が指名され、2019年度事業報告書承認、収支計算書・正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録承認、監査報告、福岡地域会規則変更承認、新役員選任の件(案)が議案が審議され2020年度事業計画書、収支予算書が報告されました。福田新地域会長は2020年度はあらためて「入りたい JIA」を目指して、今まで先輩方が築き上げたJIA福岡地域会の意思を引き継ぎ未来のJIAへつなぐべく、その活動をより活発により分かりやすく発信していきたいと思ひますと運営方針が発表されました。



福岡地域会通常総会風景

4,5月の活動について

非常事態宣言により事業室、企画運営室の活動を自粛しておりました。今後は感染状況を注視し、感染防止対策を図りながら今後の地域会活動を進めていきたいと思ひます。



「臨時役員会」

開催日 4月6日

Webによる臨時役員会出席

「佐賀地域会総会」

開催日4月10日

書面決議による総会

正会員数9

議案第1号 2019年度 事業報告の件

議案第2号 2019年度 事業決算

議案第3号 役員改選の件
2020及び2021年度JIA佐賀地域会役員

会長 野中 毅氏

副会長 馬場 泰造氏、清水 耕一郎氏

議案第4号 地域会規定改正
学生会員の入会金及び年会費

報告1 2020年度 事業計画

報告2 2020年度 事業予算案

上記に関し、7名の書面での承認を受け可決した。

「第1回役員会」

開催日4月18日

Webによる第1回役員会出席

「2019年度通常総会」

開催日5月22日

Webによる通常総会出席

■ 2020年度JIA長崎地域会総会

- 日時 2020年4月3日(金) 17:00～
- 出席 会員数21名 出席者13名 委任状4名 計17名
書面評決にて総会を開催

□新役員構成

相談役 佐々木 信明 建築家資格制度実務委員会担当
 地域会長 田中 健一郎 総務委員会担当・JIA災害対策会議担当
 副地域会長 鼻崎 象三 広報委員会担当・JIA25年賞委員会担当
 副地域会長 松本 隆之 JIA保存再生会議担当・デザインレビュー
 高校生レポーター派遣事業担当

幹事 中野 善弘 JIA環境会議
 木場 耕志 JIA建築相談会議担当
 三好 定和 JIAまちづくり会議担当
 会計幹事 中村 信夫 会計担当
 監査 奥村 信幸
 山田 宏彰

今年度の総会はコロナウイルス感染拡大防止の理由から書面評決方式により開催し、役員改選を支部と足並みを揃える為に行いました、会員や地域社会へのアプローチ事業を継続して進めて参ります。

■ 2020年 第1回例会・建築技術セミナー

- 日 時 2020年5月11日(月)
- 出席者 メール配布(全会員・協力会員)

- 1、本部報告
- 2、支部報告
- 3、2020年度の長崎地域会事業計画について
- 4、地域会規約について

第1回目の例会・技術セミナーはコロナウイルス感染拡大防止のためメールにて報告を行いました。

■ インターンシップ事業

- 受入期間 4月8日～4月27日
- 株式会社三省設計事務所：田中健一郎 受入
九州大学芸術工学部環境設計学科 3年生1名 受入



模型作成等

■2020年度 大分地域会 通常総会

日時 2020年4月10日（金）～4月17日（金）
 場所 メール・FAX（書面表決+委任）
 出席者 11名
 JIA会員 書面表決 11名、委任状 0名、未回答 6名（11/17）

議事録作成者 重田 信爾
 議事録署名人 衛藤 元弘

【内容】

1.確認事項

新型コロナウイルスの感染拡大防止を考慮し、今年度の総会は電磁的記録による書面表決により執り行う。

2.配布資料 （4月10日、メールにて会員に送信）

- ・2020年度総会資料（全23頁）
- ・書面表決+委任書類（1頁）

3.総会

◇総会成立について

会員17名中、書面表決11名で、1/5以上の参加により本総会が成立するものとする。

◇議案 <※別紙議案結果参照>

- | | | |
|--------|--------------|----|
| ・第1号議案 | 2019年度事業報告の件 | 承認 |
| ・第2号議案 | 2019年度収支決算の件 | 承認 |
| ・第3号議案 | 2020年度役員の件 | 承認 |
| ・第4号議案 | 2020年度事業計画の件 | 承認 |
| ・第5号議案 | 2020年度収支予算の件 | 承認 |
| ・第6号議案 | 1) 会則変更の件 | 承認 |
| | 2) 例会日程の件 | 承認 |
| | 3) 委員会構成の件 | 承認 |

以上。

■2020年度 大分地域会 第1回例会

日時 2020年5月19日（火）
 場所 メールによる
 送信先 JIA大分地域会 会員（17名）
 JIA大分地域会 協会員（23社）
 +Aメンバー

【内容】

1.報告・連絡事項

- ・九州支部総会について（5月22日(金)開催）
 - *新型コロナ感染症対策のため、WEB形式開催
 - *大分から参加予定：後藤靖二副支部長、三浦前会長、重田新会長
 - *会員の皆様は、ハガキによる書面表決・委任の返信
- ・大分地域会活動について

新型コロナ対応の国・県・市およびJIA本部の方針を確認した上でできることを行っていきます。なお6月例会の開催については、5月末までに決定し連絡いたします。

また、今後のこともありますので、この機会にJIA大分地域会でのWebを活用した活動について検討を進めたいと思います。また、皆様の方でいいアイデアがございましたら、是非役員までご一報ください。
- ・学生支援企画について
- ・豊生商事(株)様 協会員入会承認について

豊生商事(株)様の大分地域会協会員への入会について、4月19日付で本部より承認されました。次回例会等で改めてご紹介いたします。なお、大分地域会協会員様は23社となりました。引き続き、充実した情報交換が出来ればと思います。

2.その他

- ・協会員の皆様へ
 - 1) 会員等イベント等の告知・ご案内がある場合は、事務局（高橋幹事）へご連絡下さい。
 - 2) 例会時にセミナー・勉強会等の企画を行いたい方は、内容と開催希望時期を例会担当（松田会員）へご連絡下さい。

3.新旧役員からのコメント

新型コロナウイルスの影響で1月例会以降、一堂に集まっていた例会が開催出来ていないため、書面により新旧役員からのコメントを記して提示。

以上。

■学生支援企画（アルバイト情報の告知）

6月1日より大分地域会会員からのアルバイト情報を告知開始。

CPD講座 熊本型伝統構法設計指針の説明

■日時2020年5月28日木曜日 20:00-21:00

■場所:ZOOMによるTV会議

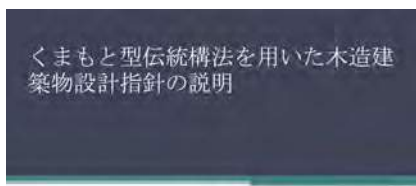
■講師:古川 保

熊本型伝統構法の設計指針を講義頂きました。

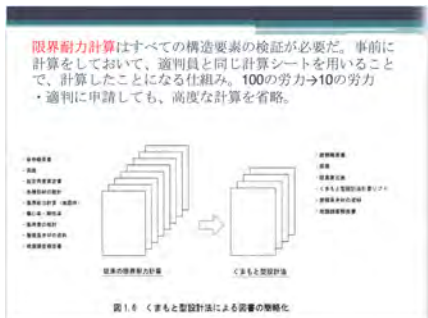
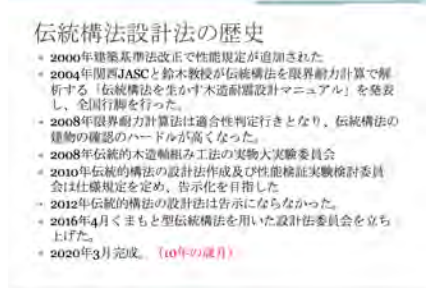
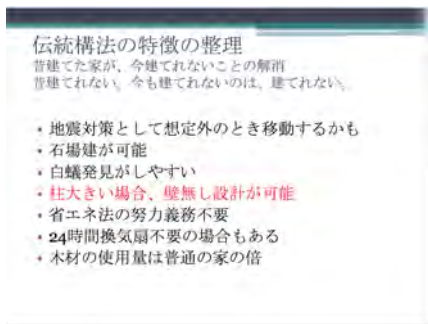
構造適合性判定は県単位で行うため、熊本において伝統構法を限界耐力計算で行い、適判にかかる労力を1/10に減らせる指針を県と協議の上作ったとの事でした。

作成にかかわられた古川さんはじめ、梅田さんやその他の建築家の労力と県の行動力に感動いたしました。

以下 講義資料抜粋



6月17日講習会



熊本地域会月例会 (第1回)

■日時2020年4月23日木曜日 18:00-20:00

■場所:メーリングリストによる会議

■参加人数:13名/14名

1.報告事項

1-1:4/6九州支部臨時役員会、4/18九州支部役員会(支部次年度事業計画、組織表、建築塾開催、5/22総会 その他について
1-2:くまもとアートポリス・コンペについて熊本県建築課からの周知依頼の対応について

2.協議事項

2-1:建築塾開催時期について
2-2:CPD講座の開催について
2-3:新型コロナウイルス感染症防止対策および政府の緊急事態宣言に伴う今後の例会及び上記以外の今後の行事予定の状況判断などの対応について
2-4:次回例会場での会議ができない場合の開催方法について(メーリングリスト、JIAテレビ会議、ZOOMなど)

3.確認事項

3-1:5/22九州支部総会(WEB総会)の出席について
3-2:次回(5/28)第2回例会CPD認定講座

熊本地域会月例会 (第2回)

■日時2020年5月28日木曜日 18:30-20:00

■場所:ZOOMによるTV会議

■参加人数:9名/14名

1.報告事項

1-1:5/22九州支部WEB総会について
1-2:くまもとアートポリス・コンペについて熊本県建築課からの周知依頼の対応について
1-3:会員情報と作品のWEB掲載について
1-4:省エネ法改正情報について
1-5:来年の作品展について

2.協議事項

2-1:建築塾開催時期について
2-2:次回月例会の開催について
2-3:今年の作品展について

3.確認事項

3-1:地域会費の請求などについて
3-2:次回例会:6月25日(木曜日)18.30から、ZOOMによるWEB会議

2020年度 JIA九州支部宮崎地域会 通常総会

日時：4月10日 金曜日 17：00～18：00
 場所：ニューウェルシティ宮崎
 参加人数：9名

議案

- ・2019年度事業報告-承認
- ・2019年度決算報告及び監査報告-承認
- ・役員改選にあたって-承認
- ・2020・2021年度役員-承認
 幹事（継続）越山・久寿米木・遠藤
 監査（継続）作田（新規）戸田
 協力会世話人（継続）宮崎ガス藤岡
- ・2020年度事業計画-承認
- ・2020年度事業予算-承認
- ・規約改正-承認
- 学生会員の入会金及び年会費



宮崎地域会例会 第1回

日時：5月11日 月曜日 19：00～19：40
 場所：web会議
 参加人数：8名

議案

- ・第1回宮崎地域会セミナーに関して
 レモン設計室による西都ふたば幼稚園にて開催
 6/7（日）10：00～12：00
- ・近況報告

木造塾の開催内容に関する意見交換会参加

日時：6月5日 金曜日 9：30～10：30
 場所：宮崎県庁 環境森林部会議室
 参加人数：1名（越山地域会長）

昨年度に継続し、今後重要となる非住宅分野の木造化・木質化を進めるため、木造建築物の設計スキルを持った建築士を育成する事業を実施する予定。事業を実施するにあたり、より充実した事業内容とするために実施する、県内建築士の意見交換会。

宮崎地域会セミナー 第1回

日時：6月7日 日曜日 10：00～12：00
 場所：西都ふたば幼稚園
 参加人数：35名



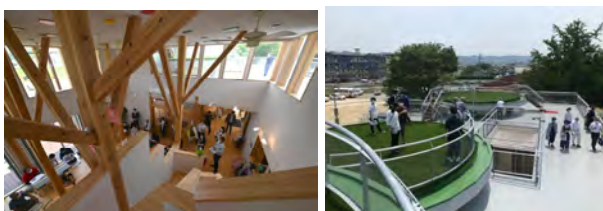
JIA 宮崎地域会セミナー
 6/7(日) 西都ふたば幼稚園
 10:00～12:00 見学会 設計 レモン設計室 河野秀親

概要
 住所：西都市大字南方 2690-11
 構造：木造平屋建て
 規模：延べ 718.77 m² (217.43 坪)
 屋根：人工芝 t=30
 外壁：シロアリ対策
 保育室：3 室 (3,4,5 歳児) 75 名
 子育て支援室：2 室 (0,1,2 歳児) 41 名

見学無料 申込不要
 どなたでも自由にご参加してください
 現地に 10:00 までに集合をしてください
 当日は必ずマスクを持参してください
 連絡先：090-2676-3572 (JIA 越山)
 090-3070-5482 (JIA 河野)

主催 公益社団法人 日本建築家協会 九州支部 宮崎地域会

当会会員のレモン設計室・河野秀親による西都ふたば幼稚園の見学会を開催。天候にも恵まれ、家族連れの方も来られ、新型コロナ対策を考慮しつつも大盛況で開催。



■ 2020年度JIA鹿児島地域会総会

- 日時 2020年4月14日(火) 16:00～
- 出席 正会員数29名 出席者14名 委任状7名 計21名

※新型コロナウイルス感染拡大防止策を取りながら、通常会議形式で総会を開催。

□新役員構成

地域会代表	肥後 潮一郎	JIAまちづくり会議担当
副代表	水本 浩二	広報委員会担当・デザインレビュー 高校生レポーター派遣事業担当
副代表	宮崎 秀志	建築家資格制度委員会担当
幹事	蓑田 康満	
	岩田 幸千	JIA25年登録委員会担当
	鯨坂 徹	JIA保存再生会議担当
	下山 道男	九州支部幹事長・総務委員会担当
監査	中俣 知大	国際交流委員会担当
相談役	石川 幸男	
	宇都 仁	会計担当
委員他	中山 高士	JIA25年登録委員会担当
	志賀 隆行	KIRA全北担当・建築展担当
	藤崎 松一郎	事務局担当・建築展担当



■ 2020年 第1回役員会

- 日 時 2020年5月19日(火) 19:00～
- 出席者 11名

※鹿児島県地域の新型コロナウイルスに関する緊急事態措置対象除外を受け、通常会議形式で第1回役員会を開催。

1. JIA支部活動報告
2. JIA25年建築選・建築賞について
3. JIA建築展・シネマ祭について
4. 講演会・大学合同講評会について
5. KIRA全北との国際交流について
6. オープンハウスカゴシマ後援について
7. JIA鹿児島会賞について
8. その他
 - ・オープンレクチャーについて
 - ・地域会事業・イベント告知用FB掲載について

BULLETIN Kyushu BRANCH



九州で活躍する建築家のための情報誌

The Japan Institute of
Architects Kyushu branch

公益社団法人 日本建築学会九州支部

JUN.2020

編集後記

本号は新体制に移り、初回発行のブルテンになります。本年度より各地域会の活動報告に加えてオピニオンやとりせつ、トピックスなど誌面内容を充実させ、本部や九州支部の動きをタイムリーに企画、掲載していきます。魅力あるJIA九州支部を社会、次世代の建築家に伝え、会員への情報サービスの向上を図っていききたいと思います。年4回のメール配信、HP掲載を予定しており、会員に向けて記事の募集や広報委員から原稿執筆のお願いを行いたいと思いますので何卒ご協力よろしくおねがいたします。ブルテンが会員と支部、社会をつなぐコミュニケーションツールのひとつとなり、益々支部活動が活発になれば嬉しく思います。初回発行のため模索しながら原稿執筆をお願いいたしました。短い締切期間、前例がない記事執筆、お忙しい中寄稿いただいた会員の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

広報副委員長 有吉兼次